

## 慢性的狭心症には半夏厚朴湯が有効

**Q** 六十七歳、男性。五年前に心筋こうそくでバイパス手術と冠状動脈拡張術を受けました。その後は心電図でも心配ないといわれていますが、時々胸部にしめつけられるような不快感を感ずます。ニトログリセリンを服用すると少し楽になり、心筋こうそく後狭心症と診断され、数種類の薬を常時服用しています。

**A** これまで心筋こうそくや狭心症は西洋医学的処置が最優先され漢方治療の出番はないとされてきた。確かに急性期には西洋医学的治療が優先される。しかし質問者のように救命処置の後も狭心症症状が慢性的に続いて悩んでいる方は少なくない。

近年の研究で厚朴（こうぼく）というホオノ

キの樹皮などに冠状動脈を広げる作用やカルシウム拮抗（きつこう）作用、血管内皮細胞由来の弛緩（しかん）因子など狭心症に有用な作用が認められるようになった。臨床的にも半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）や当帰湯（とうきとう）などが用いられ一定の効果をあげている。

また漢方薬には微小循環を改善する生薬・処方があり、これも血流の改善に有用で、心筋こうそくの予防効果も期待されている。桂枝茯苓丸（けいしぶくりようがん）や丹参（たんじん）を含む冠心Ⅱ号方（かんしんにこうほう）などが試みられている。

このように血圧など現代医学的管理の下に漢方薬を上手に併用すると全身状態や自覚症状の改善が期待できる。